

1年生の教室に行くと、元気一杯の歌声が聞こえてきました。踊ったり手拍子をしたりして楽しそうに歌う姿を見て、「学校はこうでなくちゃ」と思いました。

コロナ禍において、子供たちは音楽に触れたり楽しんだりする機会を大きく奪われました。「不要不急」という言葉が飛び交い、様々な音楽関係の行事や取組も軒並み中止となりました。

一方で、コロナ禍の中、ドイツ政府が発した「芸術（家）は人間の生命維持装置」という言葉もとても印象的な言葉です。

学校で歌声が響くことは「当たり前」なことではなく、とても幸せなことであるということを感じながら、歌を通した心豊かな学校づくりを進めたいと思います。

